

Y E G通信

新発田商工会議所青年部 〒<http://www.shibata-color.jp/yeg>

去る八月二十八日「城下町新発田まつりパレード」に、私たち商工会議所青年部は白天狗みこし運行という形で参加させて頂きました。雨の中の運行となりましたが、約九十名の女性担ぎ手に参加していただきながら、元気一杯・雨にも負けない熱気ある運行を行い、沿道の見物者からも声援を頂戴することも出来ました。

雨の中の運行となりましたが、約九十名の女性担ぎ手に参加していただきながら、元気一杯・雨にも負けない熱気ある運行を行い、沿道の見物者からも声援を頂戴することも出来ました。



さて、お祭りが終わると町並みも少しづつ秋らしくなってきました。

秋と言えば、読書、スポーツ、そして食欲の秋がやって来ます。そして青年部

と言えば、「雑煮」です。前回に続いて雑煮に関連する豆知識として皆様にお伝えしていきたいと思えます。今回は「江戸の町の「ひきずり餅」です。

歳神さまのやってくる方を「恵方(えほう)」といい、私たちに「歳魂(としまま)」を授けてくれる。歳魂というのは、一年間無病息災で過ごす為の生命力であった。元日からの三日間の朝は「雑煮」であり、東日本では切り餅を焼いて、澄まし仕立てであるのに対して、西日本では、丸餅を煮て、みそで仕立てるのが多いそうです。

また、餅搗き(もちつき)は年の暮れに済ましておくのが普通で、江戸時代の川柳のように餅を搗くことは、それ自体が神を招く事であり、ひと白めで神への供え餅を作ったとの事です。江戸の町では、十五日頃から正月用の餅搗きが始まり、武家や大店(おおだな)などでは自分の所で搗いたが、町人の場合は専門

家に自宅で搗いて貰った。これを「引きずり餅」と呼ぶのは、町内の鳶(とび)の者などが釜・臼・杵などを担い、注文のあった家の前で、勇ましい音をたてながら搗いた為だそうです。餅を搗く音は、大晦日の夜明けまで、江戸の四里(約十六キロ)四方にとどろくほど、絶え間がなかったというほど、にぎやかな餅搗きであったとされています。

最近ではあまり餅搗きを見る事が少なく、文化の発展と共に影が薄れて行くのが悲しく感じます。私たち青年部は皆様の少しでもお役に立てればとイベントを通じて「第四回城下町しげた全国雑煮合戦」に向け現在準備を進めております。全国各地の特色あるお雑煮を皆様方にお楽しみ頂けるようにと思っております。そこで次回のYEG通信は「お雑煮は語る」をお伝え致します。

城下町新発田まつりが終わった途端に急に涼しくなり日が暮れる時間も早く、やはり新発田まつりは夏の終りを告げるものと改めて感じておりますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

さて、その城下町新発田まつりパレードにおいて私たち青年部の白天狗みこしが四年前ぶりに登場いたしました。市民の皆様に見ていただけただけでしょうか。スタート時にはあいにくの雨でしたが、約九十人の女性達の熱気とパワーあふれる運行は市民皆様があつと楽しんで頂けたと思っております。そして、この天狗みこしに参加いただいた素晴らしい女性の皆さん、我々の不手際もございましたが最後までその力をお貸し頂きありがとうございます。感謝申し上げます。また、裏方でご協力いただきました新発田商工会議所女性会の皆様や新発田信用金庫の役員の皆様、本当にありがとうございます。

これから我々青年部は来年一月十三日に開催予定の第四回「城下町しげた全国雑煮合戦」に向けて全力を注いでいきます。どうぞご期待ください！



新発田商工会議所青年部
会長 大滝 浩行